

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	林野火災消火活動中における樹木枝の跳ね上げによる眼部負傷事故
3. 体験した事例の中心的要素	長時間活動による疲労から注意力の欠如があった。 また、眼部を保護する装備の準備不足並びに林野火災に対する認識の甘さがあった。
4. 体験した事例の原因・理由	大規模な林野火災であったため、それに対応するための交替要員の確保不足並びに経験及び訓練不足

【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 21 年 4 月 12 日 午前 9 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：林野火災現場
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：樹木の枝の跳ね上げ
7. 事例体験時の活動	火災その他：現場活動後期 [林野]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	残火整理、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[49]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[6]年、階級[消防団員]、同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	林野火災の残火処理の為、ジェットシューターを装備し、入山した。	
経過2	当事者A	残火処理活動中、自らの進行を確保するために排除した樹木の枝が左眼に接触したもの。	
経過3	当事者A	他の団員に付き添われ下山し、病院へ向かった。	
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が劣っていた。危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。個人装備が不適切だった。足元の安全が確保できていなかった。現場周辺の地理がわからなかった。その他 : 長時間の活動による疲労があった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	はい

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	はい
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	はい

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	はい

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

注意力欠如がないように適宜休息を摂るよう努める。

○装備・資機材の対策について

ゴーグルを装備し、眼部の保護に努める。また、安全靴（編み上げ）の着装を徹底する。

○活動環境の対策について

長時間の活動による疲労があったものと思われるため、交替要員の確保し、隊員の体調管理に努める。

○指揮・情報伝達の対策について

火災現場においては、予期せぬ危険が多々潜んでいるため、隊長及び各隊員が感じた危険をそれぞれが声かけ、伝達することで危険回避に努める。